社会福祉法人 恩賜財団
東京都同胞援護会
TOKYOTO・DOHO・ENGOKAI

同援だより

2010年 盛夏号
http://www.doen.jp/

財源の議論を

常務理事　菅原　眞廣

先般五月、平成二十一年度の事業報告及び決算報告が役員会で承認されました。おかげさまで、各施設、各事業がおおむね所期の目標を達成することができました。関係機関や職員の皆様に心より感謝申し上げます。

昨年度は福祉人材の確保と処遇改善を目指して、介護報酬や支援費の単価アップがなされ、更には介護職員や障害者支援職員の処遇改善交付金が支給されました。我が法人においても、これらを財源の一部として、各種手当の増額や非正規職員の正規化を積極的に図るなどして、職員の処遇改善に取り組んだところです。そのため、今回の決算では、人件費がかなり伸びるという結果になりました。

この処遇改善交付金は、今年度も「キャリアパス」を要件として交付されることになっていますが、人材の安定的な確保のため、また、人件費の伸びが法人の経営を圧迫しないためにも、こうした資金の交付を今後とも続けて欲しいものです。しかし、この交付金も二十三年度で終了します。期間限定の交付金では、法人の安定財源にはなりえず、思い切った処遇改善を行うのを躊躇せざるを得ないというのが、多くの社会福祉法人の実情ではないでしょうか。

介護報酬や、支援費などの事業収入が安定して確保できるような制度改正とその財源確保について、大いに議論が巻き起こることを期待します。

東村山生活実習所
新しい事業がスタートしました

東村山生活実習所
所長　飯島一憲

東村山生活実習所の竣工式が平成二十二年三月二十六日（土）に無事とり行われました。当日は、東京都福祉保健局障害者施策推進部芦田真吾部長、渡部尚東村山市長、また近隣の施設の代表の方、地域住民と多くの方々がお祝いにかけつけてくれました。

運営を始めて丸四年で新しい施設の完成を迎えることができ、新たに生まれ変わった東村山生活実習所の建物の紹介とそこで行う事業についてご紹介したいと思います。

［建物の紹介］

建物は一部木造の部分をとりいれた鉄筋コンクリート造りの二階建てとなっています。

この建物の外観ですが、周囲には公園があり、そこには木々が多く、そうした点を考慮し、緑色を基調として屋根を造った結果、周囲と色合いがとてもマッチしたものが完成することができました。また、前面の屋根の部分は、八角形の形をしており、さらにその上に帽子のように天窓が付いていて、遠くからもよく見え、周囲のシンボル的な存在感があります。

この施設を建設するにあたり従来の福祉施設というイメージの建物ではなく、何か夢のある、見ているだけでも楽しくなるような建物を切望していたので完成した時には、本当に感激した次第です。当時建設している時も、何ができるのかと地域の方々が多く関心を寄せ、実際問い合わせも多くありました。

内部は、木材や珪藻土を取り入れた屋根部分や床、壁で仕上がっていて、「落ち着きや温もり」を感じるように工夫されています。明かりは、できるだけ自然な外の光を取り入れるような採光を工夫し、それ以外の食堂や廊下などは、温かみのある電球色を取り入れています。従来、心身に障害のある方々が通所し、活動しているところであり、そうした方々が落ち着いてまた、安全に活動できる場所の確保は一番配慮しなければならない点でした。できるだけ木などの天然素材、自然な採光、自然な空気の流れ（空調）など考えたつくりになっているところです。

［事業の紹介］

こうして新しくなった建物では、この竣工式に先立ち障害者自立支援法に則した事業を三月一日から実施しています。「生活介護」「就労継続支援B型」「短期入所」の三事業です。それぞれの事業についてご紹介いたします。

■「生活介護」について

従来、「知的障害者通所更生施設」として運営してきましたが、新法では、「生活介護」という名称で二十七人の定員から三十人の定員で再出発することになりました。通所されている方々は平均年齢四十歳代ですが、新しい施設になり、気持ちよく通所されて

いる様子です。仮設での活動だったためスペースの都合上制限されていましたが、完成後は広い園庭もあり、農園芸活動や運動など今まで以上に充実した活動になっています。

■「就労継続支援B型」について

就労に関しては、東京都で最も重要な福祉施策の一つとして力を入れられているところです。東村山生活実習所でも新たな事業として取り組んでおり、障害を持つ方々の就労を支えていきたいと考えています。

就労支援をどのようにしてアプローチしていくのか、実習所では、設計の段階から喫茶コーナーを設置し障害を持つ方々の支援に役立てようと考えてきたところです。現在、クッキーやシフォンケーキを利用者の方々が作り、メニューの中に加え、喫茶を営業しています。店の名前は「ふわふわドリーム」。これは、利用者が自ら考え名づけました。この喫茶に来て頂いたお客さんたちが、心がふわふわと和めるような場所をつくり、また、何か夢を語らえるような場所になればいいなという趣旨です。今後、お店が発展するように頑張っていきたいと思っています。

■「短期入所」について

短期入所は家族支援の中で重要なサービスのひとつとして取り組んでいます。実習所ではなるべく多くの方々に利用してもらい、少しでも困った時に役に立てればと思っています。そのためには、多くの地域福祉関係者や施設の方々との連携を図り、利用していただきたいと考えています。短期入所を実施する部屋も家庭的に作られていて、快適な空間が演出されていると思います。

昭島市中部地域包括支援センターあいぽっく

相談課長　森下聖子

昭島市より委託をうけ、旧市役所庁舎である昭島市保健福祉センターに「昭島市中部地域包括支援センターあいぽっく」を立ち上げ、早二ヵ月がたちました。

昭島市民の方々になじみのある保健福祉センター（あいぽっく）内にあることから、地域の高齢世帯の方々が気軽に相談に訪れてくださり、毎日多種多様な相談に対応しています。地域包括支援センターは、保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員の三人の専門職が連携し、①総合相談②権利擁護③包括ケアマネジメント④介護予防を行います。そのため、市役所や地域の事業所、民生委員やボランティアの方々、そして病院等様々な機関と連携し、ネットワークをつくることが必要不可欠となります。

現在所長一名（兼務）相談職員三名、事務員一名で昭島市中部の高齢者約八千八百人を担当しています。実際に介護サービスを利用されている方は、その中の十七パーセントほどですが、今後高齢化が進むにつれ、さらにご利用者は増加していくのではないかと考えています。介護認定の申請に関する相談や介護サービスに関する相談がほとんどですが、時には、家族の精神疾患や障害、金銭・住宅問題など複合的な問題を抱えているケースで、関係機関から相談を

受け、共に関わるケースもあります。その他にも住宅改修の手続きを行ったり、市や地域の会合に参加しネットワーク作りを行ったり、毎日相談対応の一名を残してほぼ訪問に出かけている状況です。

先日百人近くの市民の方々の集まるフォーラムが「～地域包括支援センターを中心につくる支えあいのかたちとは～」というテーマのもと、

あきしまネット主催にて開催されました。地域の方々からの意見のなかで、地域ネットワークづくりにもっと関わってほしいなどの切実な要望も聞かれました。また地域包括支援センターは、介護予防のケアプランに取り組む事となっていますが作成に追われ、本来の地域包括支援センターに期待されている総合相談や地域ネットワーク作りに関われない現状があるとの報告もありました。昭島市中部地域包括支援センターあいぽっくでも、現在介護予防ケアプランの担当件数が、一人当たり委託を含め約五十件となっています。その為、介護予防ケアプラン作成に関わる業務が日常業務の大半をしめる状況となっており、今後地域における、地域包括支援センターに対する期待にどう応え、ネットワークの拠点として機能していけるか、大きな課題といえます。

まだまだ事業所として始まったばかりですが、人と人とのつながりを大切にしながら、地域の中で頼りにされる存在となっていけるよう、職員一同連携して取り組んで行きたいと思っています。

新任施設長挨拶

ニューフジホーム
園長 中島 昭

四月一日付でニューフジホームの園長を務めさせていただくことになりました。

私は、東京都に三十七年間勤務し、その間、特別区、福祉、主税、労働経済の分野で、生活保護、電算システム、施設の運営などの仕事に携わってまいりました。施設の運営では、中軽度知的障害者入所施設、重度知的障害児施設、身体障害者療護施設の三つの施設に通算六年弱勤務いたしました。

さて、就任して約二ヶ月が経ち、ようやく周りを見渡す余裕ができたような気がします。同援への就職も転勤の一つくらいと気楽に考えていたのですが、やはり、自分は新規採用なのだと再認識させられ、毎日緊張の連続でした。それよりも、見ず知らずの園長を迎えることになった、職員の皆さんのご苦労も並大抵ではなかったのではないかと、大変申し訳なく思っています。

でも一方では、同援の人間関係は暖かいということも実感しています。右も左もわからない中で、園の職員、高齢グループの施設長、本部の担当者等々の皆様から快く迎えていただいたことは、本当に身に染みて有難く思っております。

「福祉は人」、「ハードよりソフト」が私の信条です。

私は、施設サービスにおいて最も大切なことは、利用者の皆様に「安全で安心な暮らし」をご提供することだと考えております。そのためには、そのサービスを支える職員が生きがいを持って働くことができる職場環境を整備することが、私に課せられた最大の責務であると思っております。

そして、質の高い職員によってこそ、この「やや高齢な」ニューフジホームが、今後も質の高い福祉サービスを提供し続けることができるものと確信しています。

今後とも、ご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

小茂根福祉園
園長　工藤かおる

高齢者施設から、知的障害者通所施設の小茂根福祉園に異動し、早くも十年になりました。この間、更生施設五年、授産施設一年、副園長として四年務めて参りました。そしてこの度、園長として新たに務めさせていただくことになりました。施設長としての始まりを、慣れ親しんだ小茂根福祉園で迎えさせていただけたことに感謝すると同時に、大きな責任を感じ、身の引き締まる思いで毎日を過ごしています。そのような若干緊張の中、利用者の皆さんからは、いつもと変わらないその人らしい表現でコミュニケーションを交わしていただけると、何だか安らぎを感じホッとします。

思い返すと、この十年は、障害者福祉の動向も大きく変化して参りました。措置制度から支援費制度へ。そして障害者自立支援法が施行され、施設体系も大きく変わろうとしている中、去年の政権交代による障害者自立支援法の廃案が決まりました。今後は障害者総合福祉法と生まれ変わるようですが、いまだ混沌としている状況です。幸いにも小茂根福祉園は板橋区立福祉園ということで、このような過渡期にありながらも板橋区のご理解をいただき、安定した経営をさせていただくことができました。

また法律や制度がどのように変わろうと、私たちが向き合う利用者の皆さんには変わりはありません。目の前にいる利用者の皆さんが、地域の中で、自分らしく生きていることが実感できるような暮らしの実現を目指していくことを常に基本姿勢として、利用者の皆さんのエンパワメントを引き出す支援をしていきたいと思います。

今年度は板橋区の指定管理期間を終了する年となります。引き続き板橋区民の皆さまから信頼をいただき、指定管理を受託できるよう努めて参ります。さらに来年度は、板橋区立福祉園全施設の施設体系が新体系に移行します。他の区立福祉園と共同し、板橋区の障害者福祉の一端を担っていけるよう努めて参ります。

どうぞよろしくお願いします。

副園長挨拶

同援さくら保育園
副園長　唐澤江里子

平成二年に同援に就職して二十年目のこの春、開設準備から携わってきた同援さくら保育園の副園長となりました。副園長という重みを感じつつ、常に前向きに、謙虚にという新たな気持ちでスタートいたしました。

それと時を同じくして、以前四、五歳児クラスの二年間を受け持ったお子さんが保育士となり働き始めたという知らせを受けました。小さい頃からの夢を叶え、頑張ってやっていって欲しいという思いと共に、「私が行ってきた保育はどうだったのだろうか?」「彼女にとって良い影響を与えたのだろうか?」と考えました。保育士という、人として育つ大切な時期に関わる仕事の重みを改めて実感する出来事でした。

私が保育士になってから今日まで

も、子ども達を取り巻く環境は変化し、家族のあり様も多様化しています。そういう中で同援さくら保育園のように夜十時過ぎまでの延長保育・病後児保育・休日保育、地域に向けての一時保育等様々な保育形態を行う園が増え、利用者である保護者のサポートを行っています。しかし、一方で家庭や地域の『子育て力の低下』という事も叫ばれています。

保育園は社会的役割が高まり、保育士の資質の向上が求められています。私は現場の職員と保育の楽しさ、難しさを共感しあい、さらにやりがいを持って仕事をしていきたいと思っています。

そして子ども達を中心に保護者と保育園とが共に育て合い、共に育ち合っていく場となるように日々努力していきたいと思っております。

しせつ通信

◆サンライズ万世◆

サンライズ万世では今年度より、地域における子どもや女性の心の健康な発達や成長を支えるため「子育て・発達相談」「女性相談」を一般市民向けに開設しました。「子どもの元気がない」「学校に行きたがらない」「友だちとうまく遊べない」「特定な癖や行動のこだわりが心配」「落ち着きがない」など子育てや生活、教育上の様々な心配や不安についての相談を受け付けます。子どもの発達の特徴を理解し、それぞれの発達段階にあった働きかけ方を一緒に考えて行きます。

現代の家庭ではお母さん一人で子育てを頑張り、思い通りにならない我が子に対してイライラしたり、怒りの感情を直接ぶつけてしまう状況も見られます。こんな時に専門の相談員と話すことによって、子どもに対する新しい見方や、具体的な対応方法を知ることにより、親子の関係が明るく健康な関わりが出来るようにお手伝いをします。子どもの発達についてのアセスメントをしながら、必要があれば専門の医療機関へ紹介します。その後の具体的支援や相談を受けたり、学校・幼稚園・保育園との連携のお手伝いをします。幼児期・学童期からの適切な対応によって、一人ひとりの子どもが心身共に健康な生活ができることを目指しています。

また、配偶者等による不適切な言動に悩んでいる女性のための心理相談も受け付けます。母子生活支援施設としての機能を活かして、心理的支援や具体的な対応も含めて、専門機関とのネットワークを紹介いたします。

今後は近隣の関係機関とも連携しながら、サンライズ万世心理相談室が地域の社会資源として、気軽に利用してもらえるようにPRしていきます。

（遠藤　記）

◆昭和郷第二保育園◆

昭和郷第二保育園は、緑豊かな昭和記念公園などの近隣に位置し、病院や高齢者福祉施設、母子支援施設など、同援の様々な施設と隣り合っています。そのような環境を活かし、色々な行事を通して施設を訪問したり、園に御招待したりと交流を行ってきました。核家族化が進む中、高齢者の方との交流は子ども達にとって、とても新鮮なものになっています。

本園では防犯対策として、今年度より近隣施設の高齢者の方の力をお借りして「見守り」をお願いしました。

朝は八時から九時、夕方は五時から六時の最も登降園の多い時間に門に立って頂き、登降園の安全確認をして頂いています。門は東西で二ヶ所あるため、毎日二名ずつ、三交代で六名の方が協力して下さっています。毎朝「おはようございます」と穏やかな声で言葉を掛けて下さる方、「そこに登ったら危ないよ」と優しく注意して下さる方、子どもの元気な姿を見てにこにこ温かく見守って下さる方など、皆さんが本当に心を込めて挨拶をして下さるのです。それを受けて、子ども達もお父さんやお母さんと一緒にかわいく元気に挨拶をしています。「これ見てー」「なあに？」などと、子ども達と高齢者の方との会話も自然と生まれ

同援俳壇

昭島荘　道句会

ランドセル　入学祝い　いらねんせい　河内　通子

らる桜　俳句を語る　車椅子　池沢　秀雄

花冷えや　公園の中　しずまりて　加賀屋美智子

山あいの　しずかな村や　蝶の舞い　神　きぬ乙

風に乗り　ひらりひらりと　蝶が舞ふ　榎本　博吉

晴天の　さくら吹雪や　学校へ　石塚フキ子

万世敬老園

花の下　煙草くゆらせ　ひと休み　松本　誠二

和みけり　お茶のかおり　桜餅　寺島　誠

ところてん　すうつと喉を　通りけり　平岩　武二

るようになりました。また、温かい見守りのおかげでしょうか、降園後、玄関前の広場でころんで泣いたり、怪我をする子どもが少なくなりました。

この試みは、保育園だけではなく近隣施設の高齢者の方にも少なからず影響があるようです。当番の日を心待ちにして下さっているとのお話を頂き、嬉しく思っております。

普段は行事でしかふれ合うことのなかった近隣施設の方とのふれ合いを通して、園児はもちろん、保護者の方も、更には職員もお互い気持ちのよい関係を作ることができ、双方にとってとても素晴らしい試みになったと思います。今後もこのような環境を活かし、地域の方とのふれ合いを通して成長し合える施設を目指していきたいと思います。

（尾島　記）

◆昭島荘◆

今年も恒例のライオンズクラブ餅つき・花見会が、四月十三日に桜吹雪舞散る中で行われました。前日の雨で天候が心配されましたが、当日は晴天に恵まれ、ライオンズクラブの方々のご協力のもと和やかな雰囲気の中で餅つき・花見会が開催されました。利用者の方々も加わり、軽快な杵の音と共に次々と餅がつかれていきました。又、ボランティアの方々も数多く参加され、手返しや餅切り等手早く進められ、うぐいす・ごま・あんこ・納豆・からみ・雑煮が次々と完成しました。食事会では、色とりどりの餅が並び見た目も華やかで、利用者の方々の食も進み、お代わりをする姿も見受けられ、大好評でした。

第二部のアトラクションでは、三年連続参加頂いているアメリカ人男性デュオのハート&ハートや、初参加の韓国人女性歌手、日本人女性歌手の三組の歌手の方々のコンサートが盛大に催されました。利用者の中には感激のあまり涙ぐまれる方や踊り出す方も見られ、アンコールでは、職員も参加したダンスパーティーで幕を閉じました。会が終了しても、感動の余韻にひたり、ライオンズクラブの方々、ボランティアの方々のご協力もありまして、とても有意義な一日を過ごすことができました。

来年もこのような会が開催されますよう私たち職員一同努力していきたいとおもいます。

（後藤　記）

合同俳句・短歌の会

特選

山崎栄作　選

陽だまりに　福ら雀の　はずみけり　榎本　博吉

ほんだゆき　選

連だこの　咲きにひとすじ　飛行船　神　きぬを

山崎栄作　選

遠き日の　アルバムめくる　成人式　加賀屋美智子

ライトホーム

初蝶の　ゆれながら地に　降り来たり　月岡　久三

ボール蹴る　校庭に咲く　紫木蓮　夢さめて　きこえくる音や　河鹿啼く　佳　梓

ほっといた　野草に可憐な　花が咲く　桜散り　木々の若布も　美しく　国　柄

サンホーム

葉櫻に　学童の声　ひびきをり　たんぽぽの　絮追いつつ走る児ら　新線の　映りし流れ　きらきらと　澁谷　知枝

平成21年度　事業報告について

平成22年5月26日開催された評議員会・理事会において「平成21年度事業報告」並びに「平成21年度決算」が承認されましたのでお知らせいたします。

なお、本会の事業報告並びに決算書は頁数が相当数に及びますので、その要旨のみを8頁から13頁のとおり紙上掲載いたします。

法人事務局に「平成21年度事業報告・決算書」がございますので、詳細をお知りになりたい方は、事前にお電話で来訪日をお知らせいただければ閲覧していただけます。

平成21年度　事　業　報　告

平成21年度は昨年度に引き続き日本経済が低迷し、国及び地方の財政悪化や失業率の増大などが国民生活に暗い影を投げかけました。また、新型インフルエンザの発生に対応した年でもありました。

福祉の分野では、依然として人手不足が解消されず、その対策として介護職員・障害者支援職員に処遇改善交付金が支給されました。

当法人においては、利用者サービスの一層の充実を図るため施設運営に万全を期すとともに、人材の確保・育成に努めました。

まず施設運営についてですが、利用者の個別計画に基づいた適切なサービスを提供することにより、第三者評価においても利用者満足度の高い評価を得ることができました。　また、双葉園のグループホーム高嶋の家や障害者グループホーム2カ所を開設し、東村山生活実習所の改築工事が終了しました。サンライズ世田谷については廃止となりました。

次に人材についてですが、計画的な採用を進めるとともに、法人研修の充実に加え、各支援系グループにおいて新人研修や専門別研修を計画的に実施いたしました。また、新たにキャリアパスを明示し、職員のモラールアップに繋げました。

最後に昭島病院の運営については、DPC病院として運営を開始し、入院・外来ともに収益の改善に取り組むとともに、医療材料等のコスト削減に努めた結果、今年度も黒字決算となりました。

この一年、施設の利用者ならびにご家族の皆様をはじめ、関係者、地域の皆様から様々なご支援、ご協力を賜りましたことを心から感謝いたします。

平成21年度　施設利用状況報告

平成22年3月31日現在

グループ名	種別	施設名	利用状況 定員（世帯）	利用者数	1日平均利用者数	年間利用者数	年間実施延日数	年間利用率	職員配置状況（人） 正規職員	臨時職員 契約職員	非常勤A	非常勤B	職員数合計	常勤換算
保育支援系	保育所	むさしの保育園	154	155	155.7	45,629	293	101.1%	30	11	0	25	66	54.2
		本園	125	126	126.8	37,155	293	101.4%	—	—	—	—	—	—
		方南分園	29	29	28.9	8,474	293	99.7%	—	—	—	—	—	—
		昭和郷保育園	100	121	117.5	34,423	293	117.5%	19	4	1	14	38	28.3
		大山保育園	122	123	123.0	36,028	293	100.8%	20	3	8	6	37	33.9
		昭和郷第二保育園	174	185	185.5	54,346	293	106.6%	28	6	0	13	47	40.6
		本園	153	163	167.7	49,133	293	109.6%	—	—	—	—	—	—
		分園	21	22	17.8	5,213	293	84.7%	—	—	—	—	—	—
		みなと保育園	70	71	72.1	21,129	293	103.0%	13	6	0	10	29	25.0
		同援みどり保育園	125	130	130.4	38,220	293	104.4%	19	6	3	19	47	38.8
		つつじが丘保育園	110	131	126.7	37,124	293	115.2%	22	5	0	20	47	37.3
		同援さくら保育園	108	118	118.0	34,577	293	109.3%	21	4	0	23	48	34.8
	小計		963	1,034	1,029.0	301,476	293	107.2%	172	45	12	130	359	292.9
高齢者支援系	養護老人ホーム	万世敬老園	200	200	200.3	73,092	365	100.1%	22	10	6	12	50	42.8
	軽費老人ホーム	サンホーム	50	50	49.8	18,194	365	100.0%	10	3	2	8	23	16.0
		ライトホーム	50	41	42.1	15,362	365	84.2%	1	2	0	0	3	3.0
	小計		300	291	292.2	106,648	365	94.8%	33	15	8	20	76	61.8
	特別養護老人ホーム（短期入所生活介護事業含）	フジホーム	104	98	100.6	36,732	365	96.8%	28	18	0	24	70	56.9
		ニューフジホーム	104	99	97.5	35,577	365	93.7%	35	10	0	29	74	61.5
		原町ホーム	52	47	51.2	18,705	365	98.6%	17	7	8	6	38	34.2
		ゆたか苑	54	50	51.6	18,837	365	95.6%	20	10	2	7	39	33.1
		ひかり苑	54	51	52.2	19,063	365	96.7%	20	17	0	7	44	38.3
	小計（介護施設）		368	345	353.2	128,914	365	96.3%	120	62	10	73	265	224.0
	認知症対応型老人共同生活介護	かえで	9	9	8.6	3,135	365	95.4%	2	5	0	3	10	9.0
	老人デイサービスセンター	フジ・デイサービスセンター	25	—	19.7	6,075	308	78.9%	3	1	5	5	14	12.0
		フジ・デイホーム	10	—	7.2	2,209	308	71.7%	1	0	6	0	7	6.3
		原町高齢者在宅サービスセンター	15	—	13.6	4,199	308	90.9%	1	3	3	8	15	11.9
		東大和市ふれあいデイセンターひかり苑	12	—	10.0	3,094	308	83.7%	2	3	0	1	6	5.9
	地域包括支援センター	新宿区榎町高齢者総合相談センター	—	—	—	3,044	293	—	5	0	0	0	5	5.0
	居宅介護支援事業所	フジホーム	—	—	4.2	1,009	242	—	1	1	0	1	3	2.3
		原町ホーム	—	—	2.9	840	293	—	1	1	0	1	3	2.6
		ゆたか苑	—	—	2.7	652	242	—	3	0	0	0	3	2.8
		ひかり苑	—	—	1.3	305	242	—	1	0	0	0	1	1.0
	小計（介護在宅）		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
障害者支援系	知的障害者更生施設	さやま園（入所）	100	100	101.1	36,549	365	100.1%	31	15	0	20	66	57.8
		小茂根福祉園（通所）	30	32	30.9	7,474	242	102.9%	17	6	0	0	23	23.8
		東村山生活実習所（通所）	27	32	25.2	6,109	242	93.5%	10	2	0	12	24	16.8
	知的障害者授産施設	小茂根福祉園（通所）	30	29	24.1	5,825	242	80.2%	8	0	0	2	10	9.5
		立川福祉作業所（通所）	75	74	67.4	18,136	269	89.9%	12	1	0	15	28	19.8
	知的障害者短期保護事業	さやま園	5	6	2.8	1,031	365	56.5%	—	—	—	—	0	—
	救護施設	昭島荘	100	100	101.2	36,947	365	101.2%	34	4	0	4	42	40.2
	心身障害者福祉ホーム	さくらんぼ	—	—	7.1	2,591	365	—	9	2	0	7	18	14.7
	身体障害者福祉センター	さいわい福祉センター	—	—	25.2	9,214	365	—	16	1	0	18	35	25.6
	共同生活介護・共同生活援助事業	アミニティ富士見	6	5	5.6	2,039	365	93.1%	—	(1)	—	—	0	—
		グリーンハイツ	6	6	6.0	2,190	365	100.0%	—	(1)	—	—	0	—
		フレンズ・モエ	4	4	4.0	1,460	365	100.0%	—	(1)	—	—	0	—
		パル	6	6	5.8	2,129	365	100.0%	—	(1)	—	—	0	—
		それいゆ小川	6	6	6.0	1,644	274	100.0%	—	(2)	—	—	0	—
		レジオンス巣鴨	4	4	3.8	1,400	365	95.9%	—	(1)	—	—	0	—
		はなみずき	4	4	3.9	1,438	365	98.5%	—	(1)	—	—	0	—
		ユーカリ	4	3	3.4	1,259	365	86.2%	—	(1)	—	—	0	—
		夢オハナ	6	6	6.0	1,643	274	100.0%	—	(1)	—	—	0	—
	小計		413	417	429.0	139,078	365	—	137	31	0	78	246	208.2
児童・女性支援系	母子生活支援施設	サンライズ武蔵野	20	17	17.4	6,335	365	86.8%	5	2	0	5	12	9.5
		サンライズ青山	20	20	19.8	7,210	365	98.8%	5	3	0	3	11	8.9
		港区緊急一時保護	1	1	0.9	335	365	98.1%	—	—	—	—	—	—
		サンライズ万世	20	20	19.2	7,013	365	96.1%	6	3	0	5	14	10.7
		子育て短期支援	2	1	0.4	156	365	21.4%	—	—	—	—	—	—
		サンライズ山中	20	16	15.7	5,721	365	78.4%	6	2	0	1	9	8.1
	児童養護施設（地域小規模）	双葉園	40	45	41.7	15,209	365	90.6%	23	3	0	9	35	32.8
		高嶋の家	6						4	0	0	0	4	
	婦人保護施設	いこいの家	40	34	32.3	11,806	365	80.9%	9	2	0	4	15	12.6
	小計		169	154	147	53,785	365	81.3%	58	15	0	27	100	82.6
医療	病院	昭島病院	199	710	789.0	—	365	—	201	0	0	142	343	261.6
		入院	199	176	170.0	—	365	85.2%	—	—	—	—	—	
		外来	—	534	619.0	—	281	—	—	—	—	—	—	
		訪問看護ステーション	—	63	11.6	721	261	—	4	0	0	3	7	
収益	印刷	事業局	—	—	—	—	—	—	14	0	0	0	14	14.0
	土地・建物賃貸	不動産賃貸事業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計（福祉施設29、病院1、事業局1、その他事業21）			2,483	3,023	3,121.0	752140	365	—	759	182	44	492	1,477	1,203.9

注1　定員については母子支援施設は世帯数で他施設は人数。
注2　地域包括支援センターは、相談件数を記載。件数は、相談内容により重複している。なお、利用者数の合計には算入していない。
注3　嘱託医等の業務委託や派遣職員は算入していない。
注4　共同生活介護・共同生活援助事業の職員配置は、委託事業のため職員数および常勤換算には含まない。
注5　臨時職員の内、非常勤Aは正規職員の所定労働時間と同じ労働時間で雇い入れられた時間給職員、非常勤Bは正規職員の所定労働時間より短い労働時間で雇い入れられた時間給職員。なお、昭島病院（訪問看護ステーション含）はこの分類が無いため非常勤職員Bの欄にすべて算入している。
注6　常勤換算は年間平均。

決算報告書 社会福祉事業

貸借対照表　平成22年3月31日現在

（単位：千円）

資産の部		負債の部	
流動資産	2,894,704	流動負債	678,474
固定資産	11,907,579	固定負債	1,209,702
		負債合計	1,888,176
		純資産の部	
		基本金	82,664
		国庫補助金等特別積立金	3,214,347
		その他の積立金	4,090,925
		次期繰越活動収支差額	5,526,171
		純資産合計	12,914,107
資産合計	14,802,283	**負債・純資産合計**	14,802,283

事業活動収支計算書　（自）平成21年4月1日（至）平成22年3月31日

（単位：千円）

	（介護施設除く）	（介護保険事業）	計
事業活動収支の部			
事業活動収入(1)	5,064,373	2,038,916	7,103,289
事業活動支出(2)	4,621,091	1,938,335	6,559,426
事業活動収支差額(3)=(1)-(2)	443,282	100,581	543,863
事業活動外収支の部			
事業活動外収入(4)	422,168	33,330	455,498
事業活動外支出(5)	357,236	25,832	383,068
事業活動外収支差額(6)=(4)-(5)	64,932	7,498	72,430
経常収支差額(7)=(3)+(6)	508,214	108,079	616,293
特別収支の部			
特別収入(8)	198,778	94,725	293,503
特別支出(9)	199,133	118,687	317,820
特別収支差額(10)=(8)-(9)	△ 355	△ 23,962	△ 24,317
当期活動収支差額(11)=(7)+(10)	507,859	84,117	591,976
繰越活動収支差額			
前期繰越活動収支差額(12)	2,784,898	1,652,458	4,437,356
当期末繰越活動収支差額(13)=(11)+(12)	3,292,757	1,736,575	5,029,332
基本金取崩額(14)	0	0	0
基本金組入額(15)	0	0	0
その他の積立金取崩額(16)	1,143,783	18,949	1,162,732
その他の積立金積立額(17)	645,893	20,000	665,893
次期繰越活動収支差額 (18)=(13)+(14)-(15)+(16)-(17)	3,790,647	1,735,524	5,526,171
収益総額	5,685,319	2,166,971	7,852,290
費用総額	5,177,460	2,082,854	7,260,314
差引差額	507,859	84,117	591,976

資金収支計算書　（自）平成21年4月1日（至）平成22年3月31日

（単位：千円）

	（介護施設除く）	（介護保険事業）	計
経常活動による収支			
経常収入(1)	5,003,354	1,912,469	6,915,823
経常支出(2)	4,351,538	1,768,640	6,120,178
経常活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	651,816	143,829	795,645
施設整備等による収支			
施設整備等収入(4)	198,779	6,862	205,641
施設整備等支出(5)	368,878	47,501	416,379
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 170,099	△ 40,639	△ 210,738
財務活動による収支			
財務収入(7)	1,180,276	106,812	1,287,088
財務支出(8)	1,714,358	163,527	1,877,885
財務活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 534,082	△ 56,715	△ 590,797
予備費(10)			
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	△ 52,365	46,475	△ 5,890
前期末支払資金残高(12)	1,239,281	1,136,868	2,376,149
当期末支払資金残高(13)=(11)+(12)	1,186,916	1,183,343	2,370,259
収入総額	6,382,409	2,026,143	8,408,552
支出総額	6,434,774	1,979,668	8,414,442
差引差額	△ 52,365	46,475	△ 5,890

決算報告書 公益事業

貸借対照表 平成22年3月31日現在 (単位:千円)

資産の部		負債の部	
流動資産	30,101	流動負債	6,175
固定資産	0	固定負債	0
		負債合計	6,175
		純資産の部	
		基本金	0
		国庫補助金等特別積立金	0
		その他の積立金	0
		次期繰越活動収支差額	23,926
		純資産合計	23,926
資産合計	30,101	**負債・純資産合計**	30,101

事業活動収支計算書 (自)平成21年4月1日 (至)平成22年3月31日 (単位:千円)

事業活動収支の部	
事業活動収入(1)	92,826
事業活動支出(2)	96,293
事業活動収支差額(3)=(1)-(2)	△ 3,467
事業活動外収支の部	
事業活動外収入(4)	5,600
事業活動外支出(5)	3,436
事業活動外収支差額(6)=(4)-(5)	2,164
経常収支差額(7)=(3)+(6)	△ 1,303
特別収支の部	
特別収入(8)	0
特別支出(9)	0
特別収支差額(10)=(8)-(9)	0
当期活動収支差額(11)=(7)+(10)	△ 1,303
繰越活動収支差額	
前期繰越活動収支差額(12)	20,428
当期末繰越活動収支差額(13)=(11)+(12)	19,125
基本金取崩額(14)	0
基本金組入額(15)	0
その他の積立金取崩額(16)	4,801
その他の積立金積立額(17)	0
次期繰越活動収支差額 (18)=(13)+(14)-(15)+(16)-(17)	23,926
収益総額	98,426
費用総額	99,729
差引差額	△ 1,303

資金収支計算書 (自)平成21年4月1日 (至)平成22年3月31日 (単位:千円)

経常活動による収支	
経常収入(1)	98,426
経常支出(2)	99,729
経常活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	△ 1,303
施設整備等による収支	
施設整備等収入(4)	0
施設整備等支出(5)	0
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	0
財務活動による収支	
財務収入(7)	4,800
財務支出(8)	0
財務活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	4,800
予備費(10)	
当期資金収支差額合計 (11)=(3)+(6)+(9)-(10)	3,497
前期末支払資金残高(12)	20,429
当期末支払資金残高(13)=(11)+(12)	23,926
収入総額	103,226
支出総額	99,729
差引差額	3,497

決算報告書 授産事業

貸借対照表 平成22年3月31日現在 (単位:千円)

資産の部		負債の部	
流動資産	44,348	流動負債	20,065
固定資産	20,188	固定負債	0
		負債合計	20,065
		純資産の部	
		基本金	0
		国庫補助金等特別積立金	3,293
		その他の積立金	8,000
		次期繰越活動収支差額	33,178
		純資産合計	44,471
資産合計	64,536	**負債・純資産合計**	64,536

事業活動収支計算書 (自)平成21年4月1日 (至)平成22年3月31日 (単位:千円)

授産事業活動収支の部	
授産事業活動収入(1)	31,854
授産事業活動支出(2)	32,069
授産事業活動収支差額(3)=(1)-(2)	△ 215
福祉事業活動収支の部	
福祉事業活動収入(4)	220,122
福祉事業活動支出(5)	207,390
福祉事業活動収支差額(6)=(4)-(5)	12,732
事業活動外収支の部	
事業活動外収入(7)	1,590
事業活動外支出(8)	1,725
事業活動外収支差額(9)=(7)-(8)	△ 135
経常収支差額(10)=(3)+(6)+(9)	12,382
特別収支の部	
特別収入(11)	1,550
特別支出(12)	1,550
特別収支差額(13)=(11)-(12)	0
当期活動収支差額(14)=(10)+(13)	12,382
繰越活動収支差額	
前期繰越活動収支差額(15)	27,596
当期末繰越活動収支差額(16)=(14)+(15)	39,978
基本金取崩額(17)	0
基本金組入額(18)	0
その他の積立金取崩額(19)	0
その他の積立金積立額(20)	6,800
次期繰越活動収支差額 (21)=(16)+(17)-(18)+(19)-(20)	33,178
収益総額	255,116
費用総額	242,734
差引差額	12,382

資金収支計算書 (自)平成21年4月1日 (至)平成22年3月31日 (単位:千円)

授産事業活動による収支	
授産事業収入(1)	30,706
授産事業支出(2)	28,906
授産事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	1,800
福祉事業活動による収支	
福祉事業収入(4)	210,612
福祉事業支出(5)	195,813
福祉事業活動資金収支差額(6)=(4)-(5)	14,799
施設整備等による収支	
施設整備等収入(7)	1,550
施設整備等支出(8)	2,374
施設整備等資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 824
財務活動による収支	
財務収入(10)	0
財務支出(11)	6,800
財務活動資金収支差額(12)=(10)-(11)	△ 6,800
予備費(13)	
当期資金収支差額合計 (14)=(3)+(6)+(9)+(12)-(13)	8,975
前期末支払資金残高(15)	19,308
当期末支払資金残高(16)=(14)+(15)	28,283
収入総額	242,868
支出総額	233,893
差引差額	8,975

決算報告書 医療事業

貸借対照表 平成22年3月31日現在

(単位:千円)

資産の部		負債の部	
流動資産	841,971	流動負債	339,863
固定資産	3,554,812	固定負債	2,126,132
繰延資産	42,317	**負債合計**	2,465,995
		資本の部	
		資本金	908,836
		国庫補助金等特別積立金	633,752
		当期未処分利益	430,517
		資本合計	1,973,105
資産合計	4,439,100	**負債・資本合計**	4,439,100

損益計算書 (自)平成21年4月1日 (至)平成22年3月31日

(単位:千円)

医業損益の部	
医業収益(1)	2,904,279
医業費用(2)	2,810,919
医業利益(3)=(1)-(2)	93,360
医業外損益の部	
医業外収益(4)	341,736
医業外費用(5)	335,503
医業外利益(6)=(4)-(5)	6,233
経常利益(7)=(3)+(6)	99,593
期間外損益の部	
期間外収益(8)	18,838
期間外費用(9)	12,850
期間外利益(10)=(8)-(9)	5,988
当期利益(11)=(7)+(10)	105,581
法人税等	0
税引き後当期利益	105,581
前期繰越利益(12)	324,936
当期未処分利益(13)=(11)+(12)	430,517
収益総額	3,264,853
費用総額	3,159,272
差引損益	105,581

決算報告書 病院訪問看護事業

貸借対照表 平成22年3月31日現在

(単位:千円)

資産の部		負債の部	
流動資産	5,427	流動負債	10,665
固定資産	1,029	固定負債	0
		負債合計	10,665
		資本の部	
		資本金	0
		当期未処分損失	△ 4,209
		資本合計	△ 4,209
資産合計	6,456	**負債・資本合計**	6,456

損益計算書 (自)平成21年4月1日 (至)平成22年3月31日

(単位:千円)

事業損益の部	
事業収益(1)	29,125
事業費用(2)	27,975
事業利益(3)=(1)-(2)	1,150
事業外損益の部	
事業外収益(4)	3,930
事業外費用(5)	3,933
事業外利益(6)=(4)-(5)	△ 3
経常利益(7)=(3)+(6)	1,147
特別損益の部	
特別利益(8)	0
特別損失(9)	0
特別利益(10)=(8)-(9)	0
税引前当期利益(11)=(7)+(10)	1,147
法人税等	0
税引き後当期利益	1,147
前期繰越損失(12)	△ 5,356
当期未処利損失(13)=(11)+(12)	△ 4,209
収益総額	33,055
費用総額	31,908
差引損益	1,147

決算報告書 収益事業

貸借対照表 平成22年3月31日現在

(単位:千円)

資産の部		負債の部	
流動資産	129,731	流動負債	75,827
固定資産	269,816	固定負債	68,558
		負債合計	144,385
		資本の部	
		資本金	176,241
		積立金	9,800
		別途積立金	50,340
		当期未処分利益	18,781
		資本合計	255,162
資産合計	399,547	**負債・資本合計**	399,547

損益計算書 (自)平成21年4月1日 (至)平成22年3月31日

(単位:千円)

営業損益の部	
売上高(1)	258,741
売上原価(2)	185,663
販売費および一般管理費(3)	53,510
営業利益(4)=(1)-(2)-(3)	19,568
営業外損益の部	
営業外収益(5)	15,193
営業外費用(6)	26,037
営業外損失(7)=(5)-(6)	△ 10,844
経常利益(8)=(4)+(7)	8,724
特別損益の部	
特別利益(9)	170
特別損失(10)	1,405
特別損失(11)=(9)-(10)	△ 1,235
税引前当期利益(12)	7,489
法人税等	2,655
税引き後当期利益(13)	4,834
前期繰越利益(14)	5,947
積立金取崩目的額(15)	8,000
当期未処分利益(16)=(13)+(14)+(15)	18,781
収益総額	274,104
費用総額	269,270
差引損額	4,834

決算報告書 法人全体

貸借対照表 平成22年3月31日現在

(単位:千円)

資産の部		負債の部	
流動資産	3,918,913	流動負債	1,103,701
固定資産	15,502,020	固定負債	3,322,994
繰延資産	42,317	**負債合計**	4,426,695
		純資産の部	
		基本金	82,664
		資本金	915,071
		国庫補助金等特別積立金	3,851,393
		その他の積立金	4,108,724
		次期繰越活動収支差額	6,078,703
		純資産合計	15,036,555
資産合計	19,463,250	**負債・純資産合計**	19,463,250

財産目録

平成22年3月31日現在

社会福祉法人 恩賜財団 東京都同胞援護会

（単位:千円）

Ⅰ 資産の部		￥19,463,250
(1) 流動資産	￥3,918,913	
(2) 固定資産	￥15,502,020	
ア.基本財産	￥9,132,011	
イ.その他の固定資産	￥6,370,009	
(3) 繰延資産	￥42,317	
Ⅱ 負債の部		￥ 4,426,695
(1) 流動負債	￥1,103,701	
(2) 固定負債	￥3,322,994	
Ⅲ 差引純資産		￥15,036,555

監査報告書

平成22年5月14日

社会福祉法人 恩賜財団 東京都同胞援護会
理事長 牧野洋一 殿

社会福祉法人 恩賜財団 東京都同胞援護会
監事 五十嵐力平
監事 鈴木道生

私たち監事は、平成21年4月1日から平成22年3月31日までの平成21年度の事業年度に関して、理事の業務執行の状況及び社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会の財産の状況について監査をいたしました。その結果につき以下のとおり報告します。

1 監査の方法の概要

監事は、理事会その他重要な会議に出席するほか、理事等からその職務の執行状況を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、各施設における業務及び財産の状況を調査しました。また、会計帳簿等の調査を行い、計算書類及び事業報告書につき検討いたしました。

2 監査の結果

(1)会計帳簿は、記載すべき事項を正しく記載し、貸借対照表、事業活動収支計算書、資金収支計算書及び財産目録の記載と合致しているものと認めます。

(2)貸借対照表、事業活動収支計算書、資金収支計算書及び財産目録は、法令及び定款に従い法人の財産、事業活動及び資金収支の状況を正しく示しているものと認めます。

(3)事業活動報告書は、法令及び定款に従い、法人の状況を示しているものと認めます。

(4)理事の職務遂行に関する不整の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

以上

ご支援ありがとうございました（敬称略順不同）

ご寄付

◇社会福祉法人村山苑職員有志一同◇東京文化小学校◇東京数寄屋橋ライオンズクラブ◇東京都同胞援護会後援会 会長 川鍋 實◇池田康子

後援会

◇大西 陽◇福家謙介◇小野田和子◇齋藤宏美◇樋川工業㈱◇㈱ユナイテッド◇社会福祉法人村山苑◇㈱世田谷酸素商事◇㈱金井商店◇㈱八洋羽村営業所◇マツダドライサービス◇東京冷機工業㈱◇㈱コスモス医工◇橋本工務店 橋本栄◇川鍋商事㈱ 代表取締役 川鍋實◇㈲桝屋 代表取締役 吉野成司◇㈲竹屋文具店◇㈱カトービルドシステム◇国立厨房サービス㈱ 代表取締役 藤原章太郎

※「同援だよりに名簿掲載希望欄」へ○印をご記入頂いた方のみ掲載しております。

糖尿病と正しく向き合うために

内科　永井　義幸

二〇〇六年の調査では、糖尿病が強く疑われている人は約八百二十万人、糖尿病予備群（糖尿病の可能性を否定できない人）約千五十万人を合わせると、約千八百七十万人です。二〇〇二年の調査（それぞれ約七百四十万人、約八百八十万人）に比べて、たった四年の間に約二百五十万人も増加しています。

このように、日本人の糖尿病患者数は増加傾向にあり、生活様式の欧米化によって、今後もその傾向が続くと予想されています。日本人のⅡ型糖尿病増加の背景には、食生活の変化、肥満の増加、運動不足、ストレスの増加、遺伝的素因などの関与が示唆されています。

近年、生活習慣病・メタボリックシンドロームなどの言葉を耳にすることが、多々あると思いますがその印象はどうでしょうか？「食生活が不規則でアルコールを摂取し運動不足の人がよくなる病気」といった感じではないでしょうか。しかし、早期（軽症）の糖尿病のうちは、まったく自覚症状がありません。ある程度糖尿病が進行すると「のどが渇きやすい」「トイレが近くなる」「ご飯を食べてもおなかが減る」「疲れやすいなど」の症状が現われます。症状から早期発見することが難しいため、早めにきちんとした糖尿病の検査を受け、適切な治療を行うことが大切です。どんな病気も同様ですが早期発見・早期治療が大切です。糖尿病合併症に関しても同様にこの二点が大切です。そのためには正しい知識を身につけ、落ち着いて向き合うことが必要だと考えます。

それでは糖尿病とは簡単にどのような病気なのでしょうか？

血液のなかにあるブドウ糖は、すい臓から出るインスリンというホルモンによって細胞に取り込まれ、エネルギーとして利用されます。しかし、さまざまな原因によってインスリンの出が悪くなったり、インスリンの働きが鈍くなったりすると、ブドウ糖が細胞に取り込まれにくくなります。その結果、エネルギーとして利用されなかったブドウ糖が血液のなかにたまり、血糖値が高くなっていきます。血糖値が高い状態（高血糖）が持続する病気が糖尿病です。簡単にまとめるとこのようなところでしょうか。

しかし、前述の通り軽度の高血糖では全く症状はなく痛くもかゆくもないのです。それなのに何故血糖値を正常に保たなければいけないかというと…高血糖はさまざまな病気の危険因子となり糖尿病の合併症を引き起こすためです。

糖尿病による持続的な高血糖は、身体中のさまざまな臓器に影響を与えます。とくに、神経や血管が集中している臓器が影響を受けやすく、網膜症・腎症・神経障害は「糖尿病の三大合併症」といわれています。さらに、心臓病や脳梗塞の原因となる動脈硬化は、軽症の糖尿病（または境界型）の段階から進行します。これらの病気を未然に防ぐために血糖値をよくする必要があるのです。

糖尿病の治療には食事療法が不可欠です。薬による治療を行う場合でも、食事療法が正しく行われていないと十分な効果が発揮されません。軽い糖尿病では、食事療法を行うだけで、たちまち高血糖（血糖値が高い状態）が改善されてしまうこともあります。糖尿病の合併症がない明るい未来のために、日々食事療法に取り組む必要があるのです。食事療法といっても、特別な病人食を食べるわけではありません。重症な合併症がない限り、絶対に食べてはいけないものはないのです。しかし、「約束事」はあります。

（一）適切なエネルギー量のなかで食事をする

（二）栄養のバランスの取れた食事をする

この二点です。

これらは、なにも糖尿病の人だけの約束事ではなく、健康な人も守るべきことです。糖尿病食は、すべての人に勧められる健康食であり、長寿食でもあるのです。

また、運動療法もとても大切な治療の一つです。運動療法には二つの効果があります。運動をすると、筋肉が働いてブドウ糖が消費され、血中から筋肉へブドウ糖が補給されます。そのため血液中のブドウ糖の値（血糖値）は低下します。長期的にみると、運動を持続することで、筋肉の表面にあるブドウ糖を取り込むタンパクが増えて、インスリンが効きやすくなります。また、体脂肪からはインスリンを効きにくくする物質が分泌されていますが、運動による体脂肪減少によって改善させることができます。難しいことを述べてしまったかも知れませんが、大切なことはとにかく行うことが一番です。食後の散歩などが良いと思いますが、自分で続けられるものであれば基本的に何でもよいのです。

食事療法・運動療法とも最も重要なことは続けることです。頑張りすぎてもいつかは疲れてしまいます。少しずつでかまわないのです。やれることから始めていくことが成功するコツだと思います。

最後に薬物療法があります。インスリン療法や内服治療、内服の薬に関してもいくつかの種類があります。もし自分が何かしらの治療を受けているのであれば、その薬の種類や作用・効果などを理解することが大切です。積極的に主治医に相談し解決して下さい。

糖尿病は上手に付き合えば、症状もなく合併症も発症しません。正しく向き合えば健康な人と何も変わらない生活が送れるのです。そのためには糖尿病の正しい知識を身につけ理解することが重要です。

ヘルパースクール開校

高齢者支援系

当法人にとっては、はじめてとなる訪問介護員養成事業を東京都の認可を受けて四月六日に開校することができました。家庭の主婦の方や新たな職業を目指している方、実際に施設で働いている方など様々な受講生が、「新しい学びへの第一歩」を期待と緊張の中で開校式に臨まれました。本校の特徴は、総勢二十七名の福祉の第一線で働く現場の職員が講師陣となり、五十八時間十七科目の講義と四十二時間四科目の演習について、教科書だけでは学習できない実践的な授業をおこない、より優れた介護人材を送り出すことです。福祉人材の育成は社会福祉法人としての大切な役割のひとつとも言われています。その役割を担うため、笑顔と挨拶と礼儀を大切にし、①個人の尊厳を守り、利用者の意向を十分に尊重できるヘルパーを育成すること②ひとりひとりに応じた、自立を支援できるヘルパーを育成すること③利用者の立場に立って、サービスを提供できるヘルパーを育成することを指導方針としています。そして何よりも、受講生に修了証を手渡すことができるようにすること。このことを目標に、すべての講師陣が創意工夫をしながら講義をすすめています。「どのような教材を準備したらよいのか」「どうしたら正しく理解していただけるのだろうか」「飽きない授業にするにはどの様な工夫が必要なのか」「講師間で相違のないようにするにはどうしたらいいのか」など、一人ひとりの講師が様々な不安や課題に向き合いながらではありますが、介護の専門家としての意識を持ち『現場の職員が講師陣』という最大の特長を活かした魅力ある講義をおこなっています。

【エピソード】

講義では、介護全般の知識を学ぶほか、相談援助の方法や食事など、具体的な介護技術を演習形式で学びます。

受講生はグループで、あるいは、二人一組みになり、「介助する側」と「介助される側」に分かれて練習します。多くの気づきがありますが、「食事介助されてみて、飲み込みやすい姿勢が初めてわかった」「アセスメントの聞きとりが尋問みたいに感じられたから、もっと工夫した方が良いのでは」など、特に「介助される側」での気づきは大きいようです。介護職として働き出すと「介助される側」に立つことはほとんどなくなります。利用者にはご自分で伝えることができない方も多いですから、利用者理解へとつながる「介助される側」の体験は介護職として貴重で、介護の原点に戻る場にもなっています。

講師　福井幾子　記

開校にあたりご尽力賜りました多くの皆様に感謝し、この経験を忘れずにこれからも二期、三期と「福祉の心を大切に」訪問介護員の養成に努めて参ります。

祝表彰・感謝状受賞者

多年の功績とご協力に対し、次の方々が受賞・授与されました。おめでとうございます。

◎社会福祉法人日本保育協会
永年勤続表彰

同援みどり保育園
副園長　鈴木　茂子
保育士　小津　一美

◎社団法人東京都民間保育園協会
永年勤続表彰

みなと保育園
主　任　鈴木　円香

資格取得の紹介

左記の方が資格取得しました。日頃の業務に生かしご活躍を期待します。

【社会福祉士】
原町ホーム
生活相談員　菊地　陽子
フジホーム
介護職員　栗原　大輔

【介護福祉士】
ニューフジホーム
介護職員　奥平　淳子
介護職員　京岡　夏子

【精神保健福祉士】
新宿区榎町
高齢者総合相談センター
相談員　加賀美俊介

【介護支援専門員】
原町ホーム
介護職員　河野　雄太
ゆたか苑
介護職員　平沼　成幸

【臨床心理士】
双葉園
児童指導員　片山　知美

お知らせ

同援各施設では左記の予定でバザーや夏まつり等を開催致します。品物のご寄附ご協力等よろしくお願い致します。

○サンライズ青山夏祭り
七月十日(土)十時～

○こもねフェスタ
七月二十四日(土)十五時～

○さいわい福祉センター
（夕涼み会参加）
八月七日(土)十七時～

○さくらんぼまつり
九月四日(土)未

○つつじが丘保育園わいわいバザール
十月十六日(土)十時～

○さやま園祭
十月十七日(日)十時～

○原町ホーム
（大新宿区まつり参加）
十月十七日(日)十時～

○昭和郷フェスティバル
十月十七日(日)十時～

○みなと保育園
十月二十三日(土)十一時三十分～

○むさしの保育園・サンライズ武蔵野
合同バザー
十月二十三日(土)十二時～

○ゆたか苑バザー
十月二十四日(日)十時～

○同援みどり保育園
十月六日(土)十二時～

○同援さくら保育園
十月六日(土)十二時～

○大山保育園・サンライズ山中
ぽかぽかバザール
十月六日(土)十一時三十分～

○こもねまつり
十月十三日(土)未

雑感

日本のボブディランと称されるシンガーソングライター友部正人の作品の中に「スピークジャパニーズ、アメリカン」という曲がある。

この曲の一節に次のような歌詞がある。「米軍基地の金網に英語で何かが書いてある　日本人に向けた警告なら　日本語で書くべきでしょう　ライティングジャパニーズ、プリーズ　ライティングジャパニーズ、プリーズ」というものだ。私はこの曲を何度も聴いているうちに、誰が見ても聞いても、当たり前のことが案外、見過ごされていることに気づかされた。

（長者　記）

―表紙の写真―
「白樺湖にて」
（荒木忠吉　氏）

平成二十二年七月一日　発行
東京都新宿区原町三の八
電　話　〇三（三三四一）七一六一
社会福祉法人（恩賜財団）東京都同胞援護会
発行者　牧野　洋一
印刷所　東京都同胞援護会事業局
東京都千代田区外神田一―一―五